

秘

海軍公報 第四九三五號

○令 達

内令兵第二號

昭和十一年内令兵第四五號中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十七日

海軍大臣

(工) 呼稱番號區分中

小松島海軍航空隊	コ	マ	上海海軍航空隊	シ	ヤ
館山海軍航空隊	タ		佐世保海軍航空隊	サ	
父島海軍航空隊	チ	テ	鎮海海軍航空隊	チ	
大湊海軍航空隊	オ	ミ	舞鶴海軍航空隊	マ	
串本海軍航空隊	ク	シ			

ヲ削ル

(内令提要卷三、二二六頁参照)

内令兵第三號

兵器造修規則中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十七日

海軍大臣

第一百十條第二號第二項中「百分ノ三」ヲ「百分ノ六」ニ改ム

秘海軍公報 第四九三五號 昭和二十年二月十八日

○通 牒

官房備機密第四三號

昭和二十年二月十七日

海軍省 副官

關係各廳長殿

鹿兒島航空羅針所業務運用ニ關スル件通牒

首題ノ件二月十一日ヨリ左記要領ニ依リ實用ニ供セラルルコトト相成候條了知相成度

追テ業務運営上參考トナルベキ諸資料等アラバ福岡航空局支局經由鹿兒島航空羅針所宛送付相成度

記

鹿兒島航空羅針所施設概要

- 一 位 置 鹿兒島市川上町一八三四番地
- 二 空中線ノ 地理的位置 東經一三〇度三分四分七秒 北緯三一度三九分二六秒
- 三 測定電波ノ 型式及周波數 $\Delta_1 \Delta_2$ 五六六〇及六二一〇キロサイクル
- 四 通常方位 一〇〇キロメートルニ於ケル全方位
- 五 執務時間 自〇七三〇至一八〇〇及要求アリタル場合 八共ノ時間

昭和二十年二月十八日(日)

海軍大臣官房

2.27

接

六 其ノ他 測定要求ハ鹿兒島通信所へ要求ノコト尙測定ハ當分ノ間方位ノミトス

經豫機密第三號ノ一七

昭和二十年二月十七日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

臺灣銀行券及南方開發金庫券ト日本通貨トノ引換ニ關スル件通知

今般茨城縣土浦所在左記銀行ニ於テ軍人軍屬所持ノ臺灣銀行券及南方開發金庫券ト日本通貨トノ引換ヲ爲スコトト相成候條了知相成度

記
臺灣銀行券 常陽銀行土浦支店
南方開發金庫券 日本銀行土浦代理店

契一三機密第一〇號

昭和二十年二月十七日

海軍省經理局長

各廳長殿

個人用計算尺ノ準備並ニ頒布ニ關スル件照會

計算尺ニ關シテハ今般軍需省化學局ニ於テ日本セルロイド工業統制組合ヲシテ計畫生産ヲ實施セシメ市販品ノ個人的購入ハ困難トナリタルニ付海軍部内ニ於ケル個人用ノモノニ關シテハ左記ニ依リ處理相成度

記

一 計算尺ノ型式
逸 見 # 二六六四(十吋)又ハ同戰時型
同 # 三四RK(五吋)又ハ同代替品

二 準備並ニ頒布
配給ノ統制ハ各經理部ニ於テ實施スルモノトシ現品ハ各水交社ヲシテ經理局統制契約ニ依リ準備ノ上之方販賣ヲ實施セシムルモノトス

三 頒布範圍
計算尺頒布ノ範圍ハ左ニ依ルヲ建前トス
(イ) 准士官以上ニシテ航空勤務又ハ海上勤務ニ服スルモノ
(ロ) 勤務上特ニ必要アリト所轄長ニ於テ認メタルモノ

四 頒布數量
各水交社割當ノ範圍内ニテ同一人購入數ハ十吋又ハ五吋一本ニ限ルモノトス

五 實施開始期日
十 時 三月
五 時 七月

艦本機密第一一號ノ二四〇四
海軍艦政本部複寫兵器造修規則各條ノ制定及改正理由並ニ註譯中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十六日

海軍艦政本部長

第一百條(註)中「水素ガス混合量百分ノ三以内ナレバ安全ナリ」ヲ「水素ガス混合量百分ノ七、八以上ニ達スレバ引火爆發ノ懼アリ」ニ改ム

運本機密第一七八號

昭和二十年二月十四日

海軍運輸本部長

關係各廳長殿

鐵道輸送車扱貨物ノ發又ハ著驛指定ニ關スル件通牒

運輸通信省ニ於テハ最近ノ小運送逼迫事情ニ鑑ミ小運送力ノ經濟的能率の運營ヲ計ル爲大阪府及名古屋府發又ハ著ニ係ル車扱貨物ハ別紙ノ通其ノ發又ハ著驛ヲ鐵道ニ於テ指定スルコトニ相成候ニ付テハ軍需品ニ對シテモ軍事輸送上特別ナル事情アルモノノ外本指定ニ依リ取扱フコトニ取計相成度

(別紙)

達第四七號

昭和十六年八月鐵道省告示第五十六號及第五十七號ニ依リ大阪府及名古屋府發著車扱貨物ノ發著驛指定方其ノ他左ノ通定メ昭和二十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二十年一月二十日

運輸通信大臣 前田 米藏

一 大阪府及名古屋府發ハ又著ニ係ル車扱貨物ニシテ小運送

業者其ノ他眞貨主ニ非ザル者ヲ荷送人又ハ荷受人トスルモノニ對シテハ荷送人ヲシテ託送ノ際眞荷送人又ハ眞荷受人ノ氏名及集貨先又ハ届先ヲ申告セシムベシ

二 大阪府及名古屋府發又ハ著ニ係ル車扱貨物ニ對シテハ別表ノ定ムル所ニ依リ發驛又ハ著驛ヲ指定スベシ但シ特別ノ事由アル場合鐵道總局業務局長又ハ鐵道局長ハ別表所定ト異ナル驛ヲ發驛又ハ著驛トシテ指定スベキコトヲ指示スルコトヲ得

小運送業者其ノ他眞貨主ニ非ザル者ヲ荷送人又ハ荷受人トスル貨物ニ對スル前項ノ指定ハ眞貨主ノ集貨先届先等ニ依リ之ヲ爲スベシ

三 左ニ掲グル貨物ニ對シテハ前二號ノ規定ヲ適用セズ

イ 專用編發又ハ著ノ貨物

ロ 貨物ノ性質上指定驛ニ於テ取扱ヲ爲サザル貨物

ハ 水運ニ依リ小運送スベキ貨物(名古屋府發又ハ著ノ貨物ニ限ル)

ニ 野菜、果物、魚介類

四 鐵道局長ハ管内地方鐵道及軌道ニ對シ前三號ニ依リ取扱方ヲ指示スベシ

(別表添)

○ 雜 款

十版内令提票追録第二十二號(十九年十二月三十一日現在)二月十三日發送濟ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票

海軍公報 第四九三五號 昭和二十年二月十八日

一七五

送付相成度

内令提要別冊(定員關係)追録第八號(十九年十二月三十一日現在)二月十四日發送濟ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成度

軍極秘内令提要追録第八號(一月十五日現在)二月十四日發送濟ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成度

(海軍省副官)

○轉入者對スル旅費等支給ニ關スル件

旅費支給上ノ勤務地ヲ九〇三空本隊ハ館山市、大湊、申本、小松島各派遣隊ハ各所在地トス

館山本隊向赴任者ハ着後直ニ派遣隊勤務トナルコトアリ此ノ場合ハ追尾旅行ト見做シ旅費ヲ追給スベキニ付給與通牒ニ前金拂額明記サレ度

一 家族移轉料ハ任地決定後當隊ニテ支給ス
追テ大湊、申本、小松島、父島派遣隊ハ分任出納官吏給與掌理中ニ有之候

(第九〇三海軍航空隊)

○閉廳

當廠二月十五日閉廳本部ヲ海軍技術研究所構内ニ設置シ即日事務ヲ開始セリ

(第二海軍技術廠)

○移轉

當隊一月三十日本隊ヲ石川縣能美郡國府村鶴川國民學校内ニ移

轉セリ

(第三百三十六設營隊)

當隊二月三日群馬縣利根郡古馬牧村ニ移轉セリ
追テ當隊ヘノ赴任轉勤者ハ上越線後閑驛下車(陸路五〇〇米徒歩約五分)赴任ノコトニ取計ヲ得度
但シ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ横須賀市ナリ爲念

(第三十三設營隊)

○事務開始

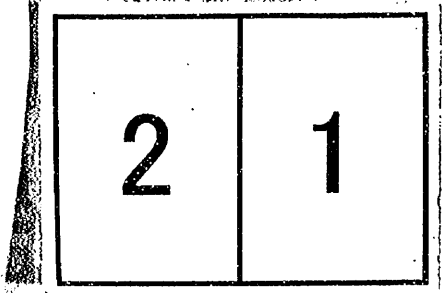
事務所名	設置場所	事務開始月日	電話	記事
伊萬里灣在勤海軍武官府殘務整理班	長崎縣北松浦郡新御厨町伊萬里灣在勤海軍武官府内	二月一日	御厨局三五番	二月一日閉廳
第百九十號海防艦總裝員事務所	長崎市飽ノ浦町海軍監督官事務所内	二月五日		
海防艦波太艦裝員事務所	大坂市此花區南之町日立造船株式會社櫻島造船所内	二月六日		
關連艦製裝員事務所	神戸川崎造船所内	二月九日		

○訂正

一月二十九日附秘海軍公報通牒欄水機密九〇號圖誌ノ項中「氣象部」ヲ「海軍氣象部」ニ、九六頁四行目「二七七二五」ヲ「二七七二二」ニ、九八頁上段二行目「(自五月)」ヲ「(自十一月)」ニ、下段十一行目「六四二A」ヲ「六四三A」ニ孰モ訂正ス

○本日海軍公報發行セズ

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	大阪市及名古屋市内 車扱貨物発着駅指定区域表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

(運本機密第一七八號別表)

大阪市及名古屋市内取扱貨物發著驛指定區域表

(昭和二十年二月十八日秘海軍公報)

◎注 意

(イ) 種別欄ニ「陸」トアル驛ハ辭又ハ筏等水路ニ依リ運搬ノモノノ取扱ヲ爲サズ、「水」トアル驛ハ水路ニ依リ運搬ノモノニ限リ取扱ヲ爲ス、又「水、陸」トアル驛ハ水路共取扱ヲ爲ス

(ロ) 記事欄ノ線名中ニハ當該線ニ接続スル社線ヲ含ムモノトス

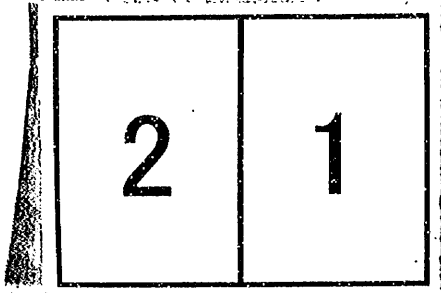
(ハ) 専用線ノ設ケアルモノノ取扱驛ハ當該接続驛ニ限ル

大阪市ノ分

ア	旭	阿部野	生野	大淀	北	此花	城東	住吉	大正	天王寺	浪速	西
全區	全區	全區	全區	全區	全區	全區	全區	全區	全區	全區	全區	全區
水、陸	陸	陸	陸	水、陸	水、陸	水、陸	水、陸	水、陸	水、陸	陸	水、陸	水、陸
淀川	淀川	淀川	淀川	淀川	淀川	淀川	淀川	淀川	淀川	淀川	淀川	淀川
發著驛	發著驛	發著驛	發著驛	發著驛	發著驛	發著驛	發著驛	發著驛	發著驛	發著驛	發著驛	發著驛
記	記	記	記	記	記	記	記	記	記	記	記	記
事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事

1829
1830

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	大阪市及名古屋市内 車扱貨物発着駅指定区域表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

秘

海軍公報

第四九三六號

昭和二十年二月十九日

海軍大臣

○令 達

内令第一二〇號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年二月十日

海軍大臣

第二監視艇隊ノ項中「第三大我丸」ヲ削ル

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令第一二二號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第七京丸(横)」ヲ削ル

舞鶴防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「鮎川丸(舞)、第二昭和丸(舞)」ヲ削ル

大湊防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「陽光丸(横)」ヲ削ル

紀伊防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「紀洋丸(吳)、高知丸(吳)」ヲ削ル

高雄海軍警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十三日ノ丸(吳)」ノ前ニ「陽光丸(横)」ヲ、「第九白神丸(吳)」ノ次ニ「紀洋丸(吳)」ヲ削ル

高知丸(吳)、鮎川丸(舞)、第二昭和丸(舞)

第四艦隊ノ項特設監視艇ノ欄「第三振興丸(横)」ヲ削ル

馬公方面特別根據地隊ノ項特設敷設艇ノ欄「長安丸(佐)」ヲ、特設驅潛艇ノ欄「朗洋丸(佐)」及「白眉丸(佐)」ヲ削ル

第十一特別根據地隊ノ項特設監視艇ノ欄「第五開洋丸(佐)」ヲ削ル

第三十根據地隊ノ項特設監視艇ノ欄「八絃丸(吳)」ヲ削ル

第六十五警備隊ノ項特設監視艇ノ欄「但馬丸(舞)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第一二三號

右特設敷設艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 汽船 長安丸

右特設驅潛艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 第七京丸

右特設監視艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 汽船 長安丸

右特設驅潛艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 朗洋丸

同 白眉丸

同 第三振興丸

同 第三大我丸

同 漁船

同 第三大我丸

秘海軍公報 第四九三六號 昭和二十年二月十九日

一七七

1833

漁船 八絃丸

右特設監視艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 第五開洋丸

右特設監視艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 但馬丸

右特設監視艇トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 神鳳丸

右特設運送船(給油船)トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 御室山丸

右特設運送船(給油船)トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 桂川丸

右特設救難船トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

海軍 大 伍

昭和二十年二月十日

内令第一二三號

驅逐艦 初櫻

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和二十年二月十日

海軍 大 伍

内令第一二六號(軍機秘海軍公報第七七號(乙配付)ニ掲載)

内令第一二七號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

正セラル

昭和二十年二月十一日

海軍 大 伍

横須賀鎮守府ノ部中第二岡崎海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第三岡崎海軍航空隊 愛知縣碧海郡

同部中「郡山海軍航空隊」ヲ「第一郡山海軍航空隊」ニ、「相模野海軍航空隊」ヲ「第一相模野海軍航空隊」ニ、「岡崎海軍航空隊」ヲ「第一岡崎海軍航空隊」ニ、「河和海軍航空隊」ヲ「第一河和海軍航空隊」ニ改ム

吳鎮守府ノ部中佐海軍航空隊ノ項ノ前ニ左ノ如ク加フ

大和海軍航空隊 奈良縣山邊郡

佐世保鎮守府ノ部中元山海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

釜山海軍航空隊 朝鮮慶尙南道金海郡

同部中「出水海軍航空隊」ヲ「第一出水海軍航空隊」ニ改ム

舞鶴鎮守府ノ部中第二美保海軍航空隊ノ項ヲ削ル

左ノ地ニ海軍航空隊分遣隊ヲ置ク部中名古屋海軍航空隊岡崎分遣隊及大村海軍航空隊濟州島分遣隊ノ各項ヲ削リ「第二美保海

軍航空隊峯山分遣隊」ヲ「姫路海軍航空隊峯山分遣隊」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第一二八號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年二月十一日

海軍大臣

「第二美保海軍航空隊」ヲ「姫路海軍航空隊」ニ、

松山航空基地 松山海軍航空隊

ヲ

美保航空基地 美保海軍航空隊

松山航空基地 第三航空艦隊

ニ改ム

濟州島航空基地ノ項ヲ削リ

鎮海航空基地

ヲ

鎮海航空基地

ニ改ム

濟州島航空基地

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令第一二九號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年二月十一日

海軍大臣

「第三岡崎海軍航空隊」ノ次ニ「第三岡崎海軍航空隊」ヲ、「滋賀海軍航空隊」ノ次ニ「大和海軍航空隊」ヲ、「元山海軍航空隊」ノ次ニ「釜山海軍航空隊」ヲ加ヘ、「郡山海軍航空隊」ヲ「第一郡山海軍航空隊」ニ、「相模野海軍航空隊」ヲ「第一相模野海軍航空隊」ニ、「岡崎海軍航空隊」ヲ「第一岡崎海軍航空隊」ニ、「河和海軍航空隊」ヲ「第一河和海軍航空隊」ニ、「出水海軍航空隊」ヲ「第一出水海軍航空隊」ニ改メ、「第二美保海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ一頁参照)

内令第一三〇號

昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年二月十一日

海軍大臣

筑波海軍航空隊等ノ部中「名古屋海軍航空隊」ノ下ニ「第三岡崎海軍航空隊、大和海軍航空隊」ヲ、「元山海軍航空隊」ノ下ニ「釜山海軍航空隊」ヲ加ヘ、「出水海軍航空隊」ヲ「第一出水海軍航空隊」ニ改メ、「第二美保海軍航空隊」及「徳島海軍航空隊」ヲ削ル
大井海軍航空隊等ノ部中「鈴鹿海軍航空隊」ノ下ニ「徳島海軍航空隊」ヲ加フ

「相模野海軍航空隊」ヲ「第一相模野海軍航空隊」ニ、「河和海軍航空隊」ヲ「第一河和海軍航空隊」ニ、「郡山海軍航空隊」ヲ「第一郡山海軍航空隊」ニ、「岡崎海軍航空隊」ヲ「第一岡崎海軍航空隊」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照)

官房機密第一一五號

公金類損害補償内規中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十八日

海軍大臣

第一條第二項ヲ削ル

第三條及第八條但書ヲ削リ第四條ヲ第三條トシ以下順次一條宛繰上テ

附則ニテ

本令ハ昭和二十年二月一日ヨリ之ヲ適用ス

(参照) 海軍機密會計法規類集三〇五頁

官房機密第一一六號

艦船部隊等ノ經費等ノ取扱特例中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十八日

海軍大臣

第八條 削除

別表ヲ削ル

附則

(参照) 海軍機密會計法規類集一頁

官房機密第一一七號

當分ノ開支那方面艦隊ノ各部ノ經費ハ之ヲ艦隊經費支辨トス

附則

本令ハ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二十年二月十八日

海軍大臣

〇通牒

軍務一機密第九二號

昭和二十年一月六日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

海軍航空隊及特設海軍飛行隊ニ於ケル

各班下士官數等ニ關スル件申進

首題ノ件左記ノ通定マラレ候

昭和十九年軍務一機密第三三九號及昭和二十年軍務一機密第一號ノ二申進ハ之ヲ廢止ス

記

射撃班 下士官	掌航空兵器兵(射撃) 高及同(光學) 高ノ定員數
雷爆班 下士官	掌航空兵器兵(雷爆) 高ノ定員數
寫眞班 下士官	掌航空兵器兵(寫眞) 高ノ定員數
飛行機班 下士官	掌整備兵(機整) 高ノ定員數
計器班 下士官	掌整備兵(計器) 高ノ定員數
電機整備班 下士官	掌整備兵(電整) 高ノ定員數
航空修補班 下士官	掌整備兵(修補) 高ノ定員數
航空無線班 下士官	掌航空兵器兵(無線) 高ノ定員數
航空電測班 下士官	掌航空兵器兵(電波) 高ノ定員數
修補部 下士官	掌工兵(高)ノ定員數ノ三分ノ一 (四捨五入)

考 備

一 航空兵器ノ整備ノ教育ヲ所掌スル海軍練習航空隊ニ於テ航空兵器ノ整備ノ教育ヲ擔當スル者ハ之ヲ除ク

二 海軍航空隊及特設飛行隊ニ於テ掌電備兵(航空無線兵器整備ノ配置ニ在ル者)、掌電測兵(航空電測兵器整備ノ配置ニ在ル者)、掌航空兵器兵及掌工兵ニシテ高等科特技章ヲ有スル者ノ現員數方定員ヲ超過スル場合ニハ超過員數(掌工兵ニ在リテハ其ノ三分ノ一)ヲ班下士官トス

三 當分ノ間航空磁氣探知器整備ニ從事スル者ハ航空電測兵器整備員ニ含ムモノトス

四 昭和二十年内令員第四號ニ依ル特設魚雷調整班員ニシテ當該海軍航空隊ヲ兼務スル下士官タル掌航空兵器兵(雷爆高)ノ員數ヲ班下士官トス

(内令提要卷一、一四〇ノ六頁參照)

秘海軍公報 第四九三六號 昭和二十年二月十九日

艦本機密第九號ノ二四一五
艦本戰時規格中機密ノ部左ノ通定ム
昭和二十年二月十八日
海軍艦政本部長

艦本戰時規格機密ノ部第一號 砲身鋼別紙ノ通定ム
(別紙ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス)

○雜款

○隊名改稱
第二美保海軍航空隊峯山分遣隊ハ二月十一日附姫路海軍航空隊峯山分遣隊ト改稱セラレタリ
(姫路海軍航空隊峯山分遣隊)

○疎開移轉
當廠機雷實驗部ハ二月十五日横須賀市浦賀町久里濱(横須賀線久里濱驛下車東方約二軒)ニ疎開移轉セリ
(横須賀海軍工廠)

○移轉
本隊二月十五日栃木縣河内郡城山村ニ移轉セリ
追テ當隊ヘノ赴任轉勤者ハ左ニ依ラレ度(家族移轉料支給上ノ勤務地ハ横須賀市ナリ爲念)
東北本線宇都宮驛下車宇都宮驛ヨリバスニテ大谷下車(徒歩約九軒)大谷ヨリ當隊マデ徒歩約四軒(宇都宮驛ヨリ城山局

マデ徒歩八・三籽

(第三千十二設營隊)

○事務所撤去

事務所名	撤去月日	記	事
願送艦務員事務所	二月八日		
第十七號輸送艦務員事務所	二月八日		
伊號第二百二潜水艦艦務員事務所	二月一日		
第六十五號海防艦艦務員事務所	二月一三日		

○電話閉通

四〇〇七番 本部校舎 主計長(興誠航空工業學校内)
 四〇〇八番 本部校舎 副官(同)
 濱松
 四〇〇九番 第一校舎 教官室(濱松第一中學校)
 四〇一〇番 第二校舎 教官室(濱松第二中學校)
 (海軍經理學校濱松分校)

○轉勤者旅行先

二月十日以降當隊並ニ左記飛行隊へノ轉勤者ハ左ニ依リ旅行セシメラレ度

千葉縣海上郡旭町(總武本線千湯驛下車)

記

攻撃第三飛行隊

攻撃第五飛行隊
 攻撃第二五六飛行隊

(第一三一海軍航空隊)

○本日軍機秘海軍公報第七七號(乙配付)發行セリ
 配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同支廠

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第四九三七號

昭和二十年二月二十日

海軍大臣

202.28

○令 達

官房人機密第九五號

本年二月十五日現在左記上欄各職員の職員タル者ハ特ニ發令セラルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

記

海軍航空技術廠	第一海軍技術廠
海軍航空技術廠支廠	第一海軍技術廠支廠

官房需機密第四〇號

昭和十九年官房需機密第三五四號中「沖繩諸島」ヲ「南西諸島」ニ改ム

昭和二十年二月十八日

海軍大臣

(参照) 官房需機密第三五四號(昭和一九、九、二六海軍公報)

秘海軍公報 第四九三七號 昭和二十年二月二十日

官房經機密第一二二號

空襲時警備又ハ災害復舊ノ爲海軍航空隊飛行場ニ出動スル陸軍部隊ノ軍人軍屬ニ對シテハ必要ニ應ジ昭和十八年官房經機密第一三三號ニ準ジ糧食ヲ給與又ハ交付スルコトヲ得

昭和二十年二月十八日

海軍大臣

(参照) 海軍機密會計法規類集二〇八頁

○通 牒

軍務一機密第一二五號

昭和二十年二月十五日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

第二海軍技術廠創設ニ關スル件申進

戰局打開ノ一關鍵タル波動(電波、音波、光波、熱波、磁氣等)應用兵器戰力化不如意ノ現狀ヲ根本的ニ解決センガ爲部内關係技術機關ヲ統合一元化シ其ノ内容ヲ刷新シ全日本ノ科學技術ヲ

一八三

1839

結集戦力化スル趣旨ノ下ニ今般新ニ第二海軍技術廠ヲ創設セラレタル處戦局ノ急迫ハ同廠機能ノ全幅發揮ニ一日ノ遲滞ヲ許サズ諸般ノ準備未ダ充分ナラザル同廠ヲシテ開設當初ヨリ克ク運営ノ円滑活潑ヲ期セシメンガ爲ニハ關係各部ノ多大ノ援助ニ俟タザルベカラザルニ就テハ同廠ニ對スル全面的且積極的協力支援ニ關シ特ニ配慮ヲ得度

海人三第二號ノ三

昭和二十年二月十九日

海軍省人事局長

關係所轄長殿

海軍武官ニ任用セラレタル者ノ届出ニ關スル件通牒

海軍主計科及技術科武官任用及服役特例等ノ規定ニ依リ現役又ハ豫備役ノ武官ニ任用セラレ海軍兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ兵役法施行規則第十六條ノ規定ニ依リ在籍領守府ノ海軍人事務ヨリ所管ノ聯隊區司令部ニ通知スベキモ最近各部ニ於ケル事務輻輳ノ爲從前ノ陸軍ノ兵籍ニ依リ陸軍部隊ニ召集セラルモノアリ不都合ヲ來セル事例尠カラザルニ付自今所轄長ハ任用通知接受セバ速ニ本人ノ戸主ヨリ本籍地ノ市區町村長ニ對シ左記様式ニ依リ兵籍編入届ヲ提出セシムル様指導方取計相成度

記

- 一 本籍地 都道府縣郡市區町村字番地
 - 二 本人ノ氏名及生年月日
 - 三 編入セラレタル兵籍名(例ヘバ「豫備役海軍二等技術兵曹横須賀領守府」)
 - 四 編入年月日
- 右及届出候也

本籍地 都道府縣郡市區町村字番地
 現住地 何々
 年 月 日
 右戸主氏 名印
 何市區町村長殿

海人賜金第四七號

昭和二十年二月十九日

海軍省人事局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

戰死軍屬ノ特別賜金ニ關スル件照會

昭和十九年八月十七日經給第一五四號(戰歿工具ノ特別進級及特別昇給ニ關スル件依命申進)及同年十月二十七日經給第二〇三號(戰死囑託者、届員及傭人ノ待遇付與並ニ報酬又ハ給料ノ増額又ハ増給ニ關スル件通牒)ニ依リ待遇付與又ハ昇給ヲ爲サレタル者ニシテ其ノ實施以前ニ昭和十七年海軍省告示第四號ニ依リ特別賜金與願書進達済ノモノニ關シテハ左記ノ事項ヲ記載シタル「特別賜金關係履歷異動通知書」ヲ海軍省人事局長ニ

(賜與願書方領守府又ハ警備府ヲ經由セルモノニ在リテハ當該領守府又ハ警備府ノ海軍人事部經由) 送付シ又昭和十八年官房入第一二一六號ニ依リ戰死證明書ノ作成委託ヲ爲シタルモノニ付テハ右異動通知書ヲ委託先廳長ニ送付相成度

追テ雇員扶助令又ハ傭人扶助令ニ依ル扶助金支給濟ノ後待遇付與又ハ昇給ノ爲サレタルモノニ關シテハ給與額ヲ改訂シ又昭和十八年官房經機密第四一二號第三條ノ規定ニ依リ委託ノモノハ特別賜金ノ場合ニ準ジ委託先廳長ニ異動通知ヲ行フ等特別措置ニ伴フ處遇ノ遺漏ナキ様可然處理相成度

記

- 一 所 轄
 - 二 職 氏 名
 - 三 昇給後ノ報酬又ハ給料額
 - 四 昇給年月日
 - 五 賜與願書進達年月日
- (註) 括弧内ニハ願書進達當時ノ報酬又ハ給料額ヲ記載スルコト

軍需機密第二七號

昭和二十年二月十九日

關係各廳長殿

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

秘海軍公報 第四九三七號 昭和二十年二月二十日

伊豆諸島及沖繩諸島ニ於ケル海軍工事又ハ作業等ニ從事スル軍人、軍屬等ニ給與スル糧食品ノ供給及整理ニ關スル件中改正ノ件通牒
昭和十九年軍需機密第二八七號首題ノ件中「沖繩諸島」ヲ「南西諸島」ニ改正致候

(參照) 軍需機密第二八七號(昭和一九、九、二六秘海軍公報)

軍需機密第二八號

昭和二十年二月十九日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

陸軍部隊ニ糧食ヲ給與又ハ交付シタル場合通報ノ件照會

官房經機密第一二二號ニ依リ陸軍部隊ニ糧食ヲ給與又ハ交付シタルトキハ昭和十八年軍需機密第四五號ニ準ジ通報相成度

(參照) 海軍機密會計法規類集二〇九頁

航本機密第一四五三號

昭和二十年二月十九日

海軍航空本部總務部長

關係各海軍航空廠長殿
關係各海軍監警長(首席監警官)殿
官給計器整備指導通牒中追加ノ件照會

昭和十九年五月二十二日航本機密第六三七二號(一九、五、二二)

三航本部報揭載)ニ依ル首題通牒中左記ノ通追加セラレ候

記

二 各海軍航空廠ノ擔任區分

擔任海軍航空廠	會社名	記事
第十一海軍航空廠	倉敷航空化工 岡山飛行機製作所	
第三十一海軍航空廠	愛知航空機 三菱航空機 名古屋製作所	計器修理ニ關シ 一部擔任ス

○ 雜 款

○ 事務開始

事務所名	設 置 場 所	事務開始 月 日	電 話 記 事
第十八號掃海艇殘務 整理班	吳海軍經理部内吳鎮守府	一月〇日	

合同海軍葬儀執行

期 日 及 時 刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場 所	記 事
三月十七日 一〇〇〇	故海軍少佐松田達郎外諸勇士	金澤地方海軍人事部長	金澤東本願寺別院	佛 式
三月二十日 一〇〇〇	故海軍少佐近藤正次郎外諸勇士	新潟地方海軍人事部長	新潟市公會堂	同

○本日軍秘海軍公報第七八號(甲配付)發行セリ
○本日海軍公報發行セズ

特設病院船中喪死殘務整理班	同	右	同	右	同	右
第百五十七號輸送艦殘務整理班	同	右	同	右	同	右
第七號海防艦殘務整理班	同	右	同	右	同	右
第百五十七號輸送艦殘務整理班	同	右	同	右	同	右
特設運送船御山丸殘務整理班	同	右	同	右	同	右
特設訓練艦龍光丸殘務整理班	同	右	同	右	同	右
第百二十六號海防艦殘務整理班	同	右	同	右	同	右
分工場内工業株式會社泉洲工場(小海軍)	同	右	同	右	同	右
第百五十一號空戰隊司令部殘務整理班	同	右	同	右	同	右

秘

海軍公報

第四九三八號

昭和二十年二月二十一日

海軍大臣

○令 達

内令第一三二號

海防艦 伊 王

第二百十三號海防艦

右本籍ヲ佐世保領守府ト定メラル

佐世保領守府在籍

第二百十三號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年二月十二日

海軍大臣

内令第一三二號

第六十五號海防艦

右本籍ヲ舞鶴領守府ト定メラル

舞鶴領守府在籍

第六十五號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年二月十三日

海軍大臣

内令第一三三號

特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十三日

海軍大臣

第七條 特設船舶警戒部ノ職員ハ船舶警戒部内ニ起臥シ其ノ紀

律ハ軍艦ノ例ニ準ズ

(内令提要卷一、三八ノ七三ノ四頁参照)

内令第一三四號

吳領守府在籍

伊號第二百二潛水艦

右練習兼警備潛水艦ト定メラル

昭和二十年二月十四日

海軍大臣

内令第一三五號

潛水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年二月十四日

海軍大臣

第三十三潛水隊ノ項中「伊號第二百一」ノ下ニ「伊號第二百

秘海軍公報 第四九三八號 昭和二十年二月二十一日

一八七

1843

二、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第一三六號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

第一驅逐隊ノ項中「神風」ノ下ニ「汐風、朝顔」ヲ加フ

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第一三七號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

第二十一特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第四百號(佐)」ノ前ニ「第四十二號(佐)」ヲ加フ

第三十一特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第四十二號(佐)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一三八號(軍極秘海軍公報第八〇號(乙配付)ニ揚載)

内令第一三九號

海軍航空技術廠及同支廠ニ置ク所要ノ部中左ノ通改正セラル

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

「海軍航空技術廠及同支廠ニ置ク所要ノ部」ヲ「海軍技術廠及同支廠ニ置ク所要ノ部、課」ニ、「海軍航空技術廠」ヲ「第一海軍技術廠」ニ、「海軍航空技術廠支廠」ヲ「第一海軍技術廠支廠」ニ改メ附則ノ前ニ左ノ如ク加フ

第二海軍技術廠ニ置ク所要ノ部、課

基礎研究部、電波兵器部、通信兵器部、音響兵器部、磁氣兵器部、光熱兵器部、電氣兵器部

總務部第一課、總務部第二課、總務部第三課

(内令提要卷一、三〇ノ一六頁参照)

内令第一四〇號

海軍技術研究所ニ置ク各部中左ノ通改正セラル

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

「電氣研究部、電波研究部、」及「音響研究部、」ヲ削ル

(内令提要卷一、二八ノ二頁参照)

内令第一四一號

第二海軍技術廠處務規程左ノ通定ム

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

第二海軍技術廠處務規程

第一條 第二海軍技術廠ハ常ニ海軍艦政本部、第一海軍技術廠、海軍工廠、海軍航空廠、關係各海軍航空隊、關係各術科學校及波動應用兵器ニ關係アル部内研究、實驗機關ト氣脈ヲ通ズベシ

第二條 廠長ハ出仕及特務士官以下定員ノ配屬ヲ定メ海軍航空本部長ニ之ヲ報告シ又海軍省軍務局長、人事局長及海軍艦政本部長ニ通報スベシ

第三條 廠長ハ廠務整理ノ爲廠内ノ服務内規ヲ定メ海軍航空本部長ノ承認ヲ受ケ之ヲ實施スルコトヲ得

第四條 廠長ハ各種研究、實驗及調査シタル事項ニ對スル成果及所見竝ニ必要ニ應ジ研究進捗ノ狀況及研究ニ關スル意見等ヲ各其ノ所掌ニ應ジ海軍航空本部長又ハ海軍艦政本部長ニ報告スベシ

前項ノ報告中重要ナルモノハ同時ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第五條 海軍技術廠令第八條ノ規定ニ依リ廠長ノ職務ヲ代理シタルトキハ代理者ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第六條 廠長ハ部外ノ各種技術的研究又ハ調査機關ト研究、調査資料ヲ交換シ又ハ研究、實驗事項ヲ部外ニ發表スル場合ニ於テ其ノ機密ニ屬スルモノハ其ノ都度海軍大臣ノ認可ヲ受ケベシ

第七條 總務部第一課ハ左ノ事項ヲ掌ル

秘海軍公報 第四九三八號 昭和二十年二月二十一日

一 各部課所掌事務(總務部第二課及第三課ノ所掌ニ屬スルモノヲ除ク)ノ綜合統一及連絡ニ關スルコト

二 公文書類ノ接受及發送ニ關スルコト

三 廠長及廠内ノ官印管守ニ關スルコト

四 機密書類ノ保管及整理ニ關スルコト

五 廠内ノ保安及取締ニ關スルコト

六 人事及一般教育ニ關スルコト

七 勞務ノ一般事項ニ關スルコト

八 工員ノ募集ニ關スルコト

九 一般設備ニ關スルコト

十 運輸、交通及通信ノ連絡及統一ニ關スルコト

十一 出師準備計畫ノ一般事項ニ關スルコト

十二 刷版及寫眞ニ關スルコト

十三 圖書ノ整備ニ關スルコト

十四 統計ニ關スルコト

十五 所屬工作物及其ノ機械、器具類ノ整備、入費概算及保存期限ニ關スルコト

十六 所屬工作物ノ新築及改更ニ伴フ一般計畫ニ關スルコト

十七 所屬雇員、傭人及工員ノ教育、維持及増減給ニ關スルコト

十八 雜役船ニ關スルコト

十九 前各號ノ外他ノ部課ノ所掌ニ屬セザルコト

第八條 總務部第二課ハ左ノ事項ヲ掌ル

一八九

- 一 研究、實驗及試作ノ綜合企畫ニ關スルコト
 - 二 研究、實驗及試作ノ綜合統制ニ關スルコト
 - 三 戰訓及訓練成果ノ調査ニ關スルコト
 - 四 研究機關ニ關スル調査、利用及連絡ニ關スルコト
 - 五 研究及實驗ノ連絡ニ關スルコト
 - 六 研究業績ノ調査ニ關スルコト
 - 七 研究資料ノ蒐集、整理及保管ニ關スルコト
 - 八 文獻ノ整理及保管ニ關スルコト
- 第九條 總務部第三課ハ左ノ事項ヲ掌ル
- 一 兵器ノ生産、裝備、取扱及調整ニ關スル技術指導ノ按畫統制ニ關スルコト
 - 二 技術指導ノ連絡ニ關スルコト
 - 三 技術指導ニ關スル教育資料ノ蒐集、整理及保管ニ關スルコト
- 第十條 基礎研究部ハ左ノ事項ヲ掌ル
- 一 各部ニ共通ナル開發研究ニ關スルコト
 - 二 真空管ノ研究ニ關スルコト
 - 三 空中線ノ研究ニ關スルコト
 - 四 部品ノ研究ニ關スルコト
 - 五 材料ノ研究ニ關スルコト
- 第十一條 電波兵器部ハ電波兵器ニ關スルコトヲ掌ル
- 第十二條 通信兵器部ハ無線兵器及有線兵器ニ（工作物タル有線通信裝置ヲ含ム）關スルコトヲ掌ル

- 第十三條 音響兵器部ハ音響兵器ニ關スルコトヲ掌ル
 - 第十四條 磁氣兵器部ハ磁氣兵器ニ關スルコトヲ掌ル
 - 第十五條 光熱兵器部ハ光波兵器及熱波兵器ニ關スルコトヲ掌ル
 - 第十六條 電氣兵器部ハ電源（一次電源ヲ除ク）ニ關スルコトヲ掌ル
 - 第十七條 第十條乃至前條ニ規定スル基礎研究部及各兵器部ノ所掌事項ヲ細別スルコト左ノ如シ
- 一 所掌物件及其ノ材料ノ研究、實驗及試作並ニ必要ニ應ジ製造及修理ニ關スルコト
 - 二 所掌物件ノ試製計畫、改良考案其ノ他應用ニ關スル基礎的研究
 - 三 所掌兵器ノ技術指導ニ關スルコト
 - 四 電波、音波等ノ傳播ニ關スルコト
 - 五 各種規格ニ關スル研究
 - 六 特令ニ依ル技術的審査研究
 - 七 各國ノ兵器及諸物件ニ關スル技術的研究
 - 八 前各號ノ外必要ト認ムル事項ノ技術的研究
 - 九 部外研究機關ニ關スル調査、利用及連絡ニ關スルコト
 - 十 研究及實驗ニ必要ナル各種物件ノ製作ニ關スルコト
 - 十一 所屬ノ工作物、機械、器具類及交付ヲ受ケタル材料物件並ニ研究、實驗、製造及修理ニ伴フ製作品ノ整備、保管、運搬、入費概算及保存期限ニ關スルコト

- 十二 各種技術的研究ニ關スル統計、記録等ニ關スルコト
 - 十三 所掌事項ノ出師準備計畫ニ關スルコト
 - 十四 所屬工作物ノ新築及改更ニ伴フ一般計畫ニ關スルコト
 - 十五 所掌事項遂行上必要ナル重要書類及規程類ノ保管及整備ニ關スルコト
 - 十六 所屬ノ雇員、傭人及工員ノ教育、維持及増減給ニ關スルコト
- 第十八條 會計部ハ會計、給與及契約並ニ事業ニ要スル材料物品ノ準備、保管及供給ニ關スルコトヲ掌ル其ノ所掌事項ノ區分及細別左ノ如シ
- 計算課
- 一 各課事務ノ綜合統一ニ關スルコト
 - 二 造兵費、研究費及受委託事業諸費ノ豫算、決算及整理並ニ收入及支拂ニ關スルコト
 - 三 工事費整理ニ關スルコト
 - 四 海軍工廠資金ノ豫算、決算、整理、收入及支拂ニ關スルコト
 - 五 事業費及之ニ關聯スル諸調査、報告及統計ニ關スルコト
 - 六 會計部所掌事項(出師準備計畫ニ關スルコトヲ除ク)遂行上必要ナル重要書類及規程類ノ保管及整備ニ關スルコト
 - 七 會計部所屬ノ雇員、傭人及工員ノ教育、維持及増減給ニ關スルコト
 - 八 前各號ノ外他課ノ所掌ニ屬セザルコト
- 給與課
- 一 職員、雇員、傭員及工員ノ諸給與ニ關スルコト
 - 二 工員ノ平均賃錢、出業及増減給ノ調査ニ關スルコト
 - 三 海軍共済組合ノ事務及給與ニ關スルコト
 - 四 所得稅徵收事務ニ關スルコト
- 購買課
- 一 波動應用兵器及其ノ屬具ノ購買、造兵材料物件、工業用機械器具類及試驗用物件ノ購買並ニ不用物件ノ賣拂其ノ他運搬等ノ契約ニ關スルコト
 - 二 部外製造所ニ請負ハシメタル工事及受託事業ノ工事契約ニ關スルコト
 - 三 部外製造所ノ經營調査ニ關スルコト
 - 四 波動應用兵器、其ノ屬具、造兵材料物件及工業用機械器具類ノ價格調査ニ關スルコト
 - 五 購置物品納入場ニ關スルコト
- 材料課
- 一 造兵材料物件ノ準備、保管及出納ニ關スルコト
 - 二 工場ニ交付セル材料物件ノ整理及監督ニ關スルコト
 - 三 工場備附ノ機械、器具類其ノ他物件ノ保管及監督ニ關スルコト
 - 四 工事上生ジタル殘材、殘屑等ノ保管及出納ニ關スルコト
 - 五 製材及利材作業ニ關スルコト
 - 六 會計部所掌事項ノ出師準備計畫ニ關スルコト

秘海軍公報 第四九三八號 昭和二十年二月二十一日

- 七 機械、器具類ノ國有財産整理事務ニ關スルコト
- 八 會計部所屬工作物及其ノ機械、器具類ノ整備、入費概算及保存期限ニ關スルコト
- 九 會計部所屬工作物ノ新築及改更ニ伴フ計畫ニ關スルコト
- 十 出師準備計畫上必要ナル重要書類及規程類ノ保管及整備ニ關スルコト
- 第十九條 醫務部ハ左ノ事項ヲ掌ル
 - 一 廠及從業員ノ保健、衛生及防疫ニ關スルコト
 - 二 診療及身体検査ニ關スルコト
 - 三 波動應用兵器作業ノ人體ニ及ボス障害ノ調査及研究ニ關スルコト
 - 四 備入扶助令及海軍共濟組合規則ニ依ル公傷病等差策定及審査ニ關スルコト
 - 五 所掌事項ノ出師準備計畫ニ關スルコト
 - 六 所屬工作物ノ新築改更ニ伴フ計畫ニ關スルコト
 - 七 所屬ノ雇員、備入及工員ノ教育、維持及増減給ニ關スルコト
 - 八 前各號ノ外一般醫務及衛生ニ關スルコト
- 第二十條 工員養成所ハ左ノ事項ヲ掌ル
 - 一 見習工員等ノ教育ニ關スルコト
 - 二 前號ノ外廠長ノ指定スル工員教育ノ計畫ニ關スルコト
 - 三 青年學校令ニ依ル教育ニ關スルコト
 - 四 所掌事項遂行上必要ナル重要書類及規程類ノ保管及整備

ニ關スルコト

- 第二十一條 橫須賀海軍工廠内ニ第二海軍技術廠橫須賀出張所ヲ置ク其ノ分掌事項左ノ如シ
 - 一 波動應用兵器（航空關係兵器ヲ除ク）ノ整備ニ關スル研究及實驗
 - 二 波動應用兵器（航空關係兵器ヲ除ク）ノ實用上ノ審査
 - 三 第十七條第十號乃至第十六號ニ掲グル事項

官房人第八六號

考課表及任用進級抜擢（候補）名簿取扱特例中左ノ通改正ス
昭和二十年二月二十日

海軍大臣

第一條ノ三 考課表調製官ハ同日同官等ニ任用進級シタル各科中、少尉（特務士官及豫備士官タルモノヲ含ム）及准士官（豫備准士官タルモノヲ含ム）ノ考課表ヲ調製進達スル場合ニ於テハ其ノ出身別ニ從ヒ任用進級抜擢順序ヲ決定シ之ヲ考課表「總評欄（評語）」ノ下ニ記註スベシ

（參照） 諸例則卷二、二六八ノ七頁

官房人第八七號

左ノ各號ニ依リ臨時考課表ヲ調製進達（移牒）スベシ
昭和二十年二月二十日

海軍大臣

秘

海軍公報

第四九三九號

昭和二十年二月二十二日(木)

海軍大臣官房受

○令 達

内令第一四二號
海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

横須賀鎮守府ノ部中第七二二海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加

第七二二海軍航空隊

神ノ池航空基地(茨城県鹿島郡)

佐世保鎮守府ノ部中第二高雄海軍航空隊、虎尾海軍航空隊及第二臺南海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

左ノ地ニ海軍航空隊分遣隊ヲ置ク部中虎尾海軍航空隊臺中分遣隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第一四三號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十五日

秘海軍公報 第四九三九號 昭和二十年二月二十二日

海軍大臣官房受

「第七二二海軍航空隊」ヲ「第七二二海軍航空隊」ニ改メ、
(臺中及東港所在ノモノヲ除ク)航空基地」ヲ「臺灣(東港廣在ノモノヲ除ク)航空基地」ニ改メ、臺中航空基地ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四二頁参照)

内令第一四四號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

「第二臺南海軍航空隊」、「第二高雄海軍航空隊」及「虎尾海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四二頁参照)

内令第一四五號

昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所管事項ノ件中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

「虎尾海軍航空隊」、「第二臺南海軍航空隊」及「第二高雄海軍航空隊」ヲ削ル

一九五

1850

航空隊ノ部ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照)

〇通牒

官房備機密第三八號

昭和二十年二月十四日

海軍次官

海軍艦政本部長
海軍航空本部長
海軍施設本部長
海軍警備府司令官
各鎮守府司令官

隠退藏物資ノ戦力化ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シ政府ハ今般別紙ノ通閣議決定ヲ行ヒ隠退藏物資ノ戦力化ニ關スル從來ノ微温的態度ヲ一擲シ關係各省協調一致シテ之ガ徹底の動員ト之ニ關聯スル不正取引ノ根絶ヲ期スル爲必要ナル施策ヲ強力ニ推進實施スルコトト相成タルニ付テハ右了知ノ上可然貴管下關係方面ヲ指導相成度就中隠退藏物資ニ關スル閣調達(關係商社又ハ生産會社ノ調達ヲ含ム)ハ理由ノ如何ヲ問ハズ之ヲ嚴禁シ右ニ違背シ規律ヲ撓亂スル向ニ對シテハ情狀ヲ酌量スルコトナク斷乎タル措置ヲ講ゼラルベキニ付部内關係職員ニ對スル指導監督ニ付テハ特ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

追テ昭和十九年八月十一日兵備二機密第一六二三號兵備局長

經理局長連名「隠退藏物資ノ戦力化措置ニ關スル件申進」ハ廢止ノコトト了知相成度
尙右閣議決定第五項ニ基ク「隠退藏物資戦力化強力推進期間」中ハ各地部内調達機關ヲ該地方協議會ニ連絡參加セシメ戰備ノ重點ニ吻合スル戦力化ニ付全幅協力セシメラレ度

(別紙)

一 隠退藏物資ノ戦力化ニ關スル件 (昭和二十年二月二十二日閣議決定)
戰局ノ現段階ニ鑑ミ隠退藏物資ノ急速戦力化ヲ圖ル爲關係各省ノ統一アル連絡協調ノ下ニ左ノ要領ニ依リ之ガ徹底の動員ヲ實施スルト共ニ之ニ關聯スル不正取引ノ根絶ヲ期スルモノトス
二 隠退藏物資ノ存在ガ戦力増強上ノ一大暗翳ナル點ヲ一般ニ認識セシムルト共ニ軍官民ヲ通ジ之ニ依存スルノ弊風ヲ打破一掃スル爲國民運動の啓發宣傳ヲ強烈ニ展開スルコト
三 物資隠退藏者ノ時局認識ヲ促シ隠退藏物資ノ自發的供出ヲ徹底セシムルト共ニ必要ニ應ジ之ガ供出ヲ強制スルコト
四 隠退藏物資ニ關スル檢察取締ヲ強化徹底シ不正取引ニ對シテハ峻烈假借ナキ彈壓ヲ加フルコト
五 本件實施ノ實效ヲ確保スル爲軍、官方面ニ於ケル隠退藏物資ニ關スル閣調達(關係商社又ハ生産會社ノ調達指導ヲ含ム)ヲ嚴禁スルコトトシ關係各省ハ管下機關ニ對シ之ガ勵行ヲ嚴重ニ通達指令スルト共ニ右ニ違背シ規律ヲ撓亂スル向アルトキハ情狀ヲ酌量スルコトナク斷乎タル措置ヲ講ズルコト

五 一定期間ヲ設定シ本件ノ實施ヲ特ニ強力ニ推進スルコト之
ガ爲軍需省ニ隱退藏物資戦力化協議會ヲ設置スルコト

(備考)

- (一) 隱退藏物資トハ不正又ハ不當ニ隱匿若ハ退藏セラルル物
資又ハ斯カル物資トナル虞アル物資ヲ謂フモノトス
- (二) 本件實施ニ併行シ工場事業場等ニ於ケル資材創當ノ適正
化、休眠資材ノ活用等ニ付一段ノ強化措置ヲ講ズルモノト
ス
- (三) 外地ニ於テモ本件ニ準ジ措置スルモノトス、

「隱退藏物資戦力化強力推進期間」 (昭和二〇、二、五)
設置要綱

一 趣 旨

昭和二十年一月三十日閣議決定「隱退藏物資ノ戦力化ニ關ス
ル件」ノ趣旨ニ則リ「隱退藏物資戦力化強力推進期間」ヲ設
置シ隱退藏物資ノ徹底的動員ト之ニ關聯スル不正取引ノ根絶
ヲ期スル爲必要ナル施策ヲ強力ニ推進實施スルモノトス

二 實施期間

自昭和二十年三月 一 日
至昭和二十年五月三十一 日

三 對象物資

各種事情ニ因リ國內ニ隱匿又ハ退藏セラルル重要物資ヲ對象
トスルモ其ノ重點ハ主トシテ左ニ掲グルモノニ指向スルモノ
トス

- (1) 思惑ノ目的ヲ以テ保有セラレ居ルモノ
- (2) 統制ニ違背シテ保有セラレ居ルモノ
- (3) 前二號ニ掲グルモノトナル虞アルモノ

四 實施地域

内地一回

五 實施機構

(一) 本件ノ實施ハ軍需省(地方ニ在リテハ軍需監理部)之ヲ
綜括シ關係各省(地方ニ在リテハ關係各地方官廳)ハ夫々
所管事務ヲ分擔實施スルモノトス

(二) 實施ニ關シ方針ノ統一竝ニ連絡及推進ヲ圖ル爲軍需省ニ
中央隱退藏物資戦力化協議會(以下中央協議會ト稱ス)、
各軍需監理部ニ地方隱退藏物資戦力化協議會(以下地方協
議會ト稱ス)ヲ設置スルモノトス
中央協議會及地方協議會ノ機構ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

六 實施要領

(一) 啓發指導

(イ) 一般指導

情報局、大政翼賛會、翼賛壯年團等ノ協力ニ依リ國民運
動的啓發宣傳ヲ強力ニ展開シ隱退藏物資ノ存在方戦力増
強上ノ一大暗闘ナル點ヲ一般ニ認識セシムルト共ニ軍官
民ヲ通ジ之ニ依存スルノ弊風ヲ打破一掃スルモノトス
(ロ) 個別指導
特ニ隱退藏物資ノ保有ヲ推定セラルル向ニ對シテハ中央

又ハ地方協議會ノ選定スル陸海軍、航空兵器總局等關係
 調達機關、需要統制機關、關係物資取扱團體其ノ他ノ適
 當ナル有力團體又ハ個人ニ依リ強烈ナル個別指導ヲ行ヒ
 之ガ自發的供出ヲ徹底セシムルモノトス

(二)

動員ノ實施

(イ) 動員ノ方式

(1) 任意供出ニ依ル買上ニ併行シ必要ニ應ジ物資統制令
 ヲ發動シテ強制買上ヲ行フモノトス

(2) 供出ハ當該物資ノ所在地ヲ管轄スル軍需監理部ニ對
 シ之ヲ爲スモノトス但シ供出ノ申出ハ軍需監理部、都
 道府縣廳其ノ他地方協議會長ノ指定スル陸海軍官衛等
 ニ於テ之ヲ受理スルモノトス

(3) 動員物資ノ買上ニ係ル實務ハ當該物資所管省又ハ其
 ノ委任ヲ受ケタル地方官廳ノ指示ニ依リ交易營團之ヲ
 處理スルモノトス

(ロ) 對價

公定價格(協定及停止價格ヲ含ム)ニ依ルモノトス但シ
 無償供出ヲ妨グザルモノトス

(三)

檢察取締ノ強化

隱退藏物資ニ關スル取締ヲ強化徹底シ其ノ所在ノ確認ニ努
 ムルト共ニ票質不良ナル事案ニ對シテハ峻烈假借ナキ彈壓
 ヲ加ヘ不正取引ノ根絶ヲ期スルト同時ニ一罰百戒隱退藏物
 資ノ自發的供出ニ寄與スル所アラシムルモノトス

(四)

動員物資ノ處分

(イ) 動員物資ノ配分ハ特ニ中央協議會ニ於テ決定スルモノ
 ヲ除キ地方協議會ニ於テ之ヲ決定スルモノトス

(ロ) 動員物資ノ配分先ヘノ賣渡ニ係ル實務ハ當該物資所管
 省又ハ其ノ委任ヲ受ケタル地方官廳ノ指示ニ依リ交易營
 團之ヲ處理スルモノトス

七 其ノ他

本件實施ノ實效ヲ確保スル爲軍官方面ニ於ケル隱退藏物資ニ
 關スル闇調達(關係商社又ハ生産會社ノ調達指導ヲ含ム)ヲ
 嚴禁スルモノトシ關係各省ハ之ヲ勵行ヲ管下機關ニ對シ嚴重
 ニ通達指令スルト共ニ右ニ違背シ規律ヲ擾亂スル向アルトキ
 ハ情狀ヲ酌量スルコトナク斷乎タル措置ヲ講ズルモノトス
 (備考)

一 既ニ檢察ノ對象トナリ居ル物資ハ一應本件對象物資中ヨ
 リ除外スルモ之ヲ戰力化ニ付テハ可及的ニ本要綱ニ準ジ措置
 スルモノトス

二 食糧ニ付テハ本件對象物資中ヨリ之ヲ除外シ別途戰力化
 ノ措置ヲ講ズルモノトス

隱退藏物資戰力化協議會規程

第一條 隱退藏物資戰力化ノ實施ニ關シ方針ノ統一並ニ連絡及
 推進ニ關スル事項ヲ調査審議スル爲中央隱退藏物資戰力化協
 議會及地方隱退藏物資戰力化協議會(以下協議會ト稱ス)ヲ
 置ク

首題ノ件ニ關シテハ官房備機密第三八號ヲ以テ海軍次官ヨリ一月三十日附閣議決定ノ趣旨ニツキ中進有之タル處本措置ノ徹底ヲ期スル爲來ル三月一日開始豫定ノ「隱退藏物資戰力化強力推進期間」ノ設置ヲ俟ツマデモナク海軍物資ノ調達ニ當リテハ此ノ際左記諸點ニ付充分留意ノ上民間業者ヲ指導相成度

記

一 隱退藏ト目サルル一般市販品ノ調達ニハ公定價格ヲ嚴守シ契約者ニ對シテハ苟クモ例外許可價格ノ設定等ヲ仄カスガ如キ態度ヲ示サザルコト

二 隱退藏物資ノ保有ヲ推定セラルル者ニ對シテハ積極的ニ個別指導ヲ行ヒ之方自發的供出ヲ促進スルコト

三 三月一日以降配分物資(食糧ヲ除ク)ノ取得ニ關シテハ各地方隱退藏物資戰力化協議會(軍需監理部)ト緊密ナル連絡ヲ保持シ海軍戰備ノ綜合充實ニ遺憾ハキヲ期スルコト

追テ本隱退藏物資ノ取得ニ關シ從來ヨリノ微温的ナル取扱ヲ依然繼續スル時ハ次官中進ニモ明カナル如ク規律ヲ擾亂スル者トシテ斷乎タル處分ヲ受クベキニ付爲念

○ 雜 款

○本日軍極秘海軍公報第八一號(乙配付)發行セリ
配付先

各司令部、各海軍軍需部(特設ヲ含ム)、各海軍經理部(特設ヲ含ム)、第一特別基地隊、第一、二海軍衣糧廠、臨時魚雷艇訓練所、經理學校、水雷學校

事務局 主任

- 憲兵司令部生產連絡班長
- 軍需省總動員局第二部統制課長
- 內務省警保局經濟保安課關係高等官
- 陸軍省整備局戰備課關係高等官
- 海軍省兵備局第二課關係高等官
- 司法省刑事局經濟課關係高等官
- 厚生省衛生局藥務課關係高等官
- 農商省總務局總務課關係高等官
- 同 纖維局紡織課關係高等官
- 軍需省總動員局第二部統制課關係高等官
- 同航空兵器總局第三局物資課關係高等官

契二機密第二三號

昭和二十年二月十五日

海軍省經理局長

各契約擔任官殿

隱退藏物資ノ戰力化措置ニ關スル件通牒

秘

海軍公報 第四九四〇號

昭和二十年二月二十三日(金) 海軍大臣官房

○令 達

内令第一四六號

海軍航空技術廠處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

「海軍航空技術廠處務規程」ヲ「第一海軍技術廠處務規程」ニ、
「海軍航空技術廠」ヲ「第一海軍技術廠」ニ改ム

第一條中「海軍艦政本部、」ノ下ニ「第二海軍技術廠、」ヲ加フ

第五條中「海軍航空技術廠令」ヲ「海軍技術廠令」ニ改ム

第十二條ノ二乃至第十三條ノ各第一號中「其ノ屬具」ニ「ヲ、
同各條ノ第三號乃至第六號中「及其ノ屬具」ヲ削ル

第十三條ノ二第一號、第二號及第五號中「航空用通信兵器、航
空用電氣兵器及此等屬具」並ニ「ヲ」航空用無線兵器ノ裝備並ニ

航空用電氣兵器及「ニ改メ同條第三號及第四號中「通信兵器、」
ヲ「無線兵器及」ニ改メ「及此等ノ屬具」ヲ削ル

第十三條ノ三第一號及第五號中「其ノ屬具」ヲ削リ同條第
二號及第三號中「及其ノ屬具」ヲ削リ「並ニ」ヲ「及」ニ改メ

同條第四號中「及其ノ屬具」ヲ削ル

第十三條ノ四第一號中「其ノ屬具」並ニ「ヲ削リ同號末尾ニ「航

空用光學兵器ノ中光波及熱波應用兵器ニ付テハ裝備ニ關ス
トノミ以下之ニ同ジ」ヲ加ヘ同條第二號乃至第五號中「改メ
空用寫眞兵器及其ノ屬具」ヲ「及航空用寫眞兵器」ニ改メ
第十三條ノ五第一號中「其ノ屬具」ヲ削リ同號末尾ニ「航
空用計器ノ中磁器探知器ニ付テハ裝備ニ關スルコトノミ以下之
ニ同ジ」ヲ加ヘ同條第二號及第四號中「及其ノ屬具」ヲ削リ同
條第三號中「及其ノ屬具」ヲ削リ「並ニ」ヲ「及」ニ改メ同條
第五號中「其ノ屬具」ヲ削ル
第十四條第一號中「其ノ屬具」ヲ、同條第二號乃至第六號中
「其ノ屬具」ヲ、同條第八號中「及其ノ屬具」ヲ削ル
第十五條第三號中「及其ノ屬具」ヲ削ル
第十七條購買課ノ部第一號中「及其ノ屬具」ヲ、同部第四號中
「其ノ屬具」ヲ削ル
第二十條中「海軍航空技術廠令第十六條」ヲ「海軍技術廠令第
二十條」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ七頁参照)

内令第一四七號

海軍技術研究所處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

秘海軍公報 第四九四〇號 昭和二十年二月二十三日

1856

第八條第二號及第十六條第八號中「工作物タル有線通信装置」ヲ削ル

第十二條 削除

第十二條ノ二及第十五條ヲ削リ第十五條ノ二ヲ第十五條トス

第十三條末尾ニ「(化學研究部ノ所掌ヲ除ク)」ヲ加フ

第十四條中「兵器及工作物タル有線通信装置」ヲ「及兵器」ニ改メ同條末尾ニ「(化學研究部ノ所掌ヲ除ク)」ヲ加フ

第十六條中「第十條乃至前條」ヲ「第十條、第十一條及第十三條乃至前條」ニ改ム

(内令提要卷一、二七頁参照)

内令第一四八號

昭和十五年内令第三三三號海軍技術研究所ノ出張所ヲ置ク等ノ件ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

(内令提要卷一、二八ノ二頁参照)

官房經第八八號

昭和十八年官房經第一八〇號(特殊使役者ノ給與ノ件)中左ノ通改正ス

昭和二十年二月二十二日

海軍大臣

一ノ四 特殊使役者ニシテ服業上有益ナル發明改良又ハ考案ヲ

爲シタル者其ノ他特ニ表彰ヲ要スル者アルトキハ一年二回以内ニ於テ所屬長官ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付一回三十圓以内ノ賞金ヲ授與スルコトヲ得

七ノ二 本邦人ニ非ザル海軍ノ徵備船舶船員ニシテ臨時傭人ニ

非ザルモノニハ本令中第一號(口)臨時傭人ノ規定(給料及航海

手當ヲ除ク)並ニ第一號ノ二、第四號、第五號及第六號第一

項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第一號ノ二及第五號ノ規定ヲ準用スル場合

ノ給料ハ船主ヨリ受タル基本給料ヲ標準トシテ日額二圓以内ニ於テ廳長ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ昭和二十年二月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第七

號ノ二ノ改正規定中第五號ノ規定ノ準用ニ關スル部分ハ昭和十六年十二月八日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(参照)海軍機密會計法規類集三二六頁

○ 通 牒

官房人機密第一一一號

昭和二十年二月二十二日

海軍次官

各領守府司令長官

各警備府司令長官

帝國在郷軍人會動員態勢化ニ伴フ學校防衛隊ノ編成等ニ關スル件中進

首題ノ件ニ關シ陸軍省ト協議ノ上別紙ノ通帝國在郷軍人會ニ對シ通牒致候條了知相成度

追テ本件ノ實施ニ關シテハ軍司令官ト緊密ニ連絡相成様致度

(別紙)

官房人機密第一一〇號

昭和二十年二月二十二日

海軍次官

帝國在郷軍人會本部長殿

帝國在郷軍人會動員態勢化ニ伴フ學校防衛隊ノ編成等ニ關スル件通牒

首題ノ件別紙ニ基キ實施方配慮相成度

追テ本件ニ關シテハ海軍部内關係ノ向ニ通牒濟ニ付申添候

(別紙)

帝國在郷軍人會動員態勢化ニ伴フ學校防衛隊ノ編成等ニ關スル件

第一目 的

帝國在郷軍人會學校防衛隊(以下學校防衛隊ト略稱ス)ハ學校分會ヲ以テ編成シ戰局ニ應シ共ノ特質ヲ發揮スル如ク對敵防衛ニ動員スルヲ目的トス

第二 編成及訓練

一 編成

(イ) 鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官ハ學校防衛隊ノ編成及訓練ノ大綱ニ關シ必要ナル指示ヲ與フルモノトス

秘海軍公報 第四九四〇號 昭和二十年二月二十三日

(ロ) 學校防衛隊ハ各學校分會毎ニ之ヲ編成シ學校關係名稱ヲ冠シ呼稱シ通常學校分會長ヲ以テ防衛隊長トス

(ハ) 隊員タル學校教職員及學徒中適任者ヲ以テ基幹要員トシ教職員基幹要員ト學徒基幹要員トニ區分ス

(ニ) 編成ハ成ル可ク速ニ完結スルモノトス

二 訓練

訓練ハ教職員基幹要員ノ訓練ニ徹底シ且成ル可ク之ヲ速成ヲ圖ルモノトシ實施ノ細部ハ左ニ依ル

此ノ場合總動員の見地ニ基キ勤勞動員等トノ關係ヲ特ニ考慮ス

(イ) 教職員基幹要員ノ訓練

(一) 在郷軍人會ノ行フ訓練

軍聯合支部長又ハ聯合支部長之カ計畫指導ヲ擔任ス

(二) 軍自ラ行フ訓練

鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官之ヲ統轄實施ス

其ノ期間ハ一年ヲ通ジ概ネ五日以内トス

(ロ) 學徒基幹要員ノ訓練

教職員基幹要員ノ訓練時適宜必要ノ最小限實施ス

(ハ) 一般隊員ノ訓練ハ差當リ之ヲ行ハズ

第三 運用及取扱

一 學校防衛隊ハ軍聯合支部長又ハ聯合支部長之ヲ統轄ス

二 學校防衛隊ノ發動ハ通常對敵行動ヲ必要トスル時機トシ

發動後ノ指示關係ト共ニ鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官之ヲ定ムルモノトス

領守府司令官及警備府司令官官管區内ニ所管外學校防衛隊存在スル場合ニ於テハ前項ニ準ジ措置スルコトヲ得

三 學校防衛隊ノ運用ハ其ノ特質ニ應ジ重點的ニ使用スルモノトス

四 空襲時ニ於テハ既存防空組織内ニ在リテ活動スルヲ本則トシ差當リ空襲ノ爲特ニ學校防衛隊ヲ發動セズ

五 昭和十九年官房人機密第六六七號ヲ學校防衛隊ニ適用ス

兵備二機密第三〇七號

昭和二十年二月二十二日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

自動車類現狀調査ノ件照會

今般海軍ニ於ケル自動車ハ本年四月一日以降航本兵器トシテ一元的機構ノ下ニ之ヲ取扱フコトニ定メラレタル處今後ノ生産補給計劃及定數設定其ノ他算定ノ基礎資料ト致度ニ付各廳現有自動車(艦本ニ屬スル戰車裝甲車ヲ除ク)ニ付左記事項參照ノ上別紙様式第一ニ依リ其ノ現狀ヲ調査シ三部ヲ中央關係部局ニ三月十日迄ニ到着スル様通報方取計相成度

追テ通報ナキ所轄ノ車輛ニ對シテハ定數設定セラレザル爲今後ノ更新、補修、部品ノ供給及燃料ノ配付等ハ無之ヲ付豫メ諒承ヲ得度

尙中央各部局ハ右通報ニ基キ別紙様式第二ノ集計表ヲ附シ三月十五日迄ニ其ノ二部ヲ海軍航空本部總務部長宛送付相成度

記

- 一 調査期日ヲ昭和二十年三月一日トス
- 二 三月一日以降同月末迄ニ受領、供給、保轉、廢車處分其ノ他變更セルモノハ其ノ都度速ニ通報ノコト
- 三 兵器、艦營需品、通常物品ハ別紙トスルコト
- 四 供給區分ハ供用、貸與(定數外供給)準備品等ト記入ノコト
- 五 廢費、準備購入費、器具又ハ治療品費等ニ依リ購入ノモノハ其ノ旨區分欄ニ記載ノコト
- 六 中央關係部局明カナラザル各廳自動車ハ經費支辨廳ニ直送ノコト
- 七 車輛ノ呼稱並ニ記載順序ハ兵器簿、定額表其ノ他各部局ニ於テ規定セラレタルモノニ依ルモノトス
- 八 代燃裝置ヲ附セルモノハ其ノ種別ヲ記事欄ニ記載ノコト(別紙添)

○雜款

- 司令艇變更
二月十一日司令艇ヲ第三十八號驅潛艇ニ變更セリ
(第二十一驅潛隊)
- 本日軍機秘海軍公報第八〇號(甲配付)發行セリ
- 本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第四九四一號

昭和二十年二月二十四日(土)

海軍大臣

○令 達

達第三三號

海軍工員戰時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和二十年二月二十三日

海軍大臣

第二十二條第一項中「戰地」ノ下ニ「臺灣、伊豆諸島、種子島以南ノ陸南諸島又ハ琉球諸島」ヲ加フ

第三十條中「若ハ第二號」ヲ「乃至第三號」ニ改ム

(參照) 海軍機密會計法規類集三一頁

內令第一二四號

第六百六十三號哨戒特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府卜定ム

昭和二十年二月十日

海軍大臣

內令第一二五號

昭和十八年內令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十日

海軍大臣

佐世保防備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄ニ「第六百六十三號」ヲ加フ

(內令提要卷三、四八ノ一九頁參照)

內令第一四九號

右本籍ヲ佐世保鎮守府卜定メラル

佐世保鎮守府在籍

第六百八十六號海防艦

第六百八十六號海防艦

右警備海防艦卜定メラル

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

官房軍機密第一八五號

海軍科學技術審議會事務處理內規中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

第二條中「又ハ海軍電波本部技術部長」ヲ削リ「海軍航空本部第一部長又ハ海軍電波本部總務部長」ヲ「又ハ海軍航空本部總務部長」ニ改ム

第三條中「海軍航空本部第一部長又ハ海軍電波本部總務部長」ヲ「又ハ海軍航空本部總務部長」ニ改ム

長」ヲ「又ハ海軍航空本部總務部長」ニ改ム

海軍公報 第四九四一號 昭和二十年二月二十四日

二〇五

1860

又ハ海軍電波本部長「ヲ」又ハ海軍航空本部長「ニ改ム

(内令提要卷一、二〇ノ五頁参照)

官房軍第九二號

昭和十九年度新造計畫雜役船ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ

公稱番號	船種	所屬	定數別	記		事
				製造訓令番號	計畫番號	
第一六七八號	內(魚雷追蹕艇型)艇 (西米)(二隻)	吳海軍工廠	臨時附屬			完 成
第一六八一〇號	同	同	同			同 二月十五日
第一六八三號	同	同	同			同 二月末
第一六八四號	同	同	同			同 三月十五日
第一六八七號	同	光海軍工廠	同			同 三月末
第一六八八號	同	橫須賀海軍工廠	同			同 三月末
第一六八九號	同	同	同			同 三月末
自第一六九〇號 至第一六九二號	同 (大米)(三隻)	吳海軍工廠	同			同 完 成

通定ム

昭和二十年二月二十三日

海軍大臣

官房軍第九五號
雜役船ノ船名ヲ左ノ通變更ス

昭和二十年二月二十三日

海軍大臣

船種	舊船名	新船名	所屬	定數	記事
練習船	柿	大	海軍兵學校	臨時附屬時	
練習船	董	三	高同	同	

官房軍第九六號
雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス

昭和二十年二月二十三日

海軍大臣

船名	種	所屬	新所屬	定數	記事
湖洋	測量船 (千六百噸)	水路部 (南方航路部供用)	水路部	臨時附屬時	
自第一五五號	カツタ	海軍航海學校	海軍航海學校 分校	定數	
自第一五三號	馬	海軍航海學校	海軍航海學校 分校	定數	
自第六六〇號	傳	海軍航海學校	海軍航海學校 分校	定數	
自第六六五號	六八	海軍航海學校	海軍航海學校 分校	定數	
第六五六號	糧食配給船 (十五米)	海軍航海學校	海軍航海學校 分校	臨時附屬時	

○通牒

官房機密第一三四號ノ二四

昭和二十年二月十五日

海軍省 副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラルルモノヲ除キ別冊暗號圖書
現狀表第四六號ニ依リ處理相成度
(別冊ハ所要ノ向ニノミニヲ配付ス)

○雜款

○隊名改稱

常隊部外隊名「武井部隊」ヲ二月六日「築部隊」ト改稱セリ
(第三千二百十一設營隊)

○轉勤者赴任先

當隊ヘノ轉勤者ハ福井市簡明林國民學校(福井驛下車徒歩約三十分)ニ向ケ赴任センメラレ度
(第三百三十七設營隊)

○本日軍極秘海軍公報第八三號(乙配付)發行セリ
配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、吳
海軍工廠、高雄海軍警備隊、宮古島警備隊、海軍水雷學校

(兵備二機密第三〇七號別紙第二様式)

(例) 自動車類現在數集計表

(昭和二十年二月二十三日秘海軍公報)

部 局 (廳) 名

品名	集計			記
	兵器	需品	通品(臺)	
乗用自動車	七、三七八	九、七二二	三五	
貨物自動車	二八	一、〇三八	一三七	
貨物三輪自動車	〇	八七六	三一一	

1864

(兵備二機密第三〇七號別紙第一様式)

例) 自動車類現狀調 (昭和二十年 月 日調) 部 隊 (應) 名

(昭和二十年二月二十三日秘海軍公報)

品名	供給區分	記號番號	車名	年式	總計數	受理年月日	現狀	記事
↑四 ○ 耗↓↑二五耗↓↑二	↑二五耗↓↑二	↑二五耗↓↑二	積載量	↑二五耗↓↑二	↑二五耗↓↑二	↑二五耗↓↑二	↑二五耗↓↑二	↑二五耗↓↑二
乘用自動車	定數	國團長一用號	二六〇一五年	席式	一八、七、六	一八、七、六	○	
貨物自動車	貸與數	物件運搬用號	二五九九二年	積式	一六、五、二五	一六、五、二五	○	アセチレン代燃車
自動自轉車	定數	一カ一般用號	二六〇三年	席式	一八、一、八三三	一八、一、八三三	×	
草刈機	定數外	草刈用號	マコミツクゾーリング式	一九三六年	一六、二、七〇八	一六、二、七〇八	△	

備考

現狀ハ左記記號ヲ以テ標示スルモノトス

- 良態ニシテ今後二年以上使用可能ノモノ
- △ 今後一年使用可能ナルモ明年度更新ノ要アルモノ
- ×
- × 衰朽毀損摩耗ノタメ修理不可能ニシテ更新ヲ要スルモノ

秘

海軍公報

第四九四二號

昭和二十年二月二十六日
海軍大臣官房

○令 達

内令第一五〇號

海軍技術會議規則中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十五日

海 軍 大 臣

第一條中「航空本部第一部長」ヲ「航空本部總務部長」ニ改メ

「航空本部第三部長」

「航空本部第四部長」

「電波本部部長」

「電波本部總務部長」

「電波本部技術部長」

ヲ削ル

第三條第一項中「航空本部第一部長」ヲ「航空本部總務部長」ニ改メ

第二課長」ニ改メ「電波本部總務部長」ヲ削リ同條第二

項中「航空本部又ハ電波本部」ヲ「又ハ航空本部」ニ改メ

第四條第一項但書中「航空本部及電波本部」ヲ「及航空本部」

ニ改ム

第五條第三項中「又ハ電波本部」ヲ削ル

第二章章名中「海軍電波本部技術會議」ヲ削ル

第六條第二號並ニ第七條第一號及第三號中「及電波本部」ヲ削

ル

第七條ノニヲ削ル

第八條第一項中「航空本部職員又ハ電波本部職員」ヲ「又ハ航空本部職員」ニ改メ「航空本部技術會議議員又ハ電波本部技術會議議員」ヲ「又ハ航空本部技術會議議員」ニ改メ

「航空本部部長又ハ電波本部部長」ヲ「又ハ航空本部部長」ニ改メ

第九條及第十三條中「航空本部技術會議及電波本部技術會議」

ヲ「及航空本部技術會議」ニ改ム

第十條及第十一條中「航空本部技術會議又ハ電波本部技術會議」

ヲ「又ハ航空本部技術會議」ニ改メ「航空本部部長又ハ電波本

部長」ヲ「又ハ航空本部部長」ニ改ム

(内令提要卷一、一九頁參照)

内令第一五一號

海軍科學技術審議會規程中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十五日

海 軍 大 臣

第二條第三項第四號ヲ削リ第五號ヲ第四號トシ以下順次繰上テ

同條第四項中「第八號」ヲ「第七號」ニ改ム

第四條第一項中「海軍航空本部會又ハ海軍電波本部會」

ヲ「又ハ海軍航空本部會」ニ改メ同條第二項中「海軍航空本部

長又ハ海軍電波本部長」ヲ「又ハ海軍航空本部長」ニ改ム

秘海軍公報 第四九四二號 昭和二十年二月二十六日

二〇九

1866

第六條第三項中「海軍航空本部第一部長及海軍電波本部總務部長」ヲ「及海軍航空本部總務部長」ニ改ム
第十條第一項中「五通」ヲ「四通」ニ改メ同條第三項中「海軍電波本部」ヲ削ル

(内令提要卷一、二〇ノ三頁参照)

内令第一五二號
海軍電波本部處務規程ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年二月十五日

海軍大臣

(内令提要卷一、二四ノ四頁参照)

内令第一五五號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル 波號第百五潜水艦
海防艦 目 斗

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル 佐世保鎮守府在籍

海防艦 目 斗

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年二月十九日

海軍大臣

内令第一五六號(軍機秘海軍公報第八四號(乙配付)ニ掲載)

内令第一五七號(軍機秘海軍公報第八五號(甲配付)ニ掲載)

内令第一五八號
潜水隊編制中左ノ通改定セララル

昭和二十年二月二十日

海軍大臣

第三十四潜水隊ノ項中「呂號第百十二」ノ下ニ「呂號第百十三、呂號第百十五」ヲ加フ

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第一五九號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セララル

昭和二十年二月二十日

海軍大臣

第一監視艇隊ノ項中「浮島丸」ヲ「長運丸」ニ改メ「第三明神丸」ヲ削リ「松生丸」ノ下ニ「漁勝丸、第二全勝丸、第十二事代丸、第二振興丸、第五たか丸、第二福蔭丸」ヲ加フ

第二監視隊ノ項中「第二十六南進丸」、「第七海南丸」及「海神丸」ヲ削リ「第五高尾丸」ノ下ニ「喜久丸、第六虎丸、第一親船丸、源勝丸、第十五振興丸、第五萬榮丸、第五號鹿島丸、第十號大黒丸、神鷹丸」ヲ加フ

第三監視艇隊ノ項中「第拾貳網島丸」及「第二號旭丸、新南丸」ヲ削リ「第五福壽丸」ノ下ニ「第一高知丸、第五幸神丸、大孝丸、第十八號住吉丸、新山丸、第六勇喜丸、第一昭陽丸、ほ號高宮丸、第五旭丸」ヲ加フ

第四監視艇隊ノ項中「豊國丸」、「第八號正榮丸」、「昭和丸」、「第三壽々丸」ヲ削リ「第二海幸丸」ノ下ニ「海形丸、第七住吉丸、第二千勝丸、福田丸、第一日之出丸、第一繁伍丸、第二松生丸、第二號明神丸、昭榮丸、長榮丸、第七大黒丸、第一新屋丸、第三松福丸、第一大喜丸、第三會漁丸、徳壽丸、龍慶丸、第五南薩丸、第十一號住吉丸、第三大黒丸、大鳳丸、第二號富士丸、武藏丸、岩手丸、白鳥丸、ふさ丸、大東丸」ヲ加フ

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令第一六〇號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年二月二十日

海軍大臣

第一南遣艦隊ノ項掃海特務艇ノ欄ニ「第九號(横)」ヲ加フ
第二十五根據地隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第九號(横)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第一六一號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年二月二十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項特設監視艇ノ欄「第五盛秋丸(横)」ノ次ニ「第三明神丸(横)、海神丸(横)、第拾貳網島丸(横)、第二號旭丸(横)、新南丸(横)、昭和丸(横)、第三壽々丸(横)、第三富正丸(横)」ヲ加フ
第一南遣艦隊ノ項特設驅潛艇ノ欄ニ「第十七日東丸(吳)、十勝丸(舞)」ヲ加フ
第三南遣艦隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「十勝丸(舞)」ヲ削ル
第二十五根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十七日東丸(吳)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第一六二號

昭和二十年二月二十日

汽船浮島丸
汽船豊國丸

右特設砲艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

漁船 第二十六南進丸

同 第七海南丸

同 第八號正榮丸

同 第一號大晴丸

右特設監視艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

昭和二十年二月二十日

海軍大臣

内令第一六三號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和二十年二月二十日

海軍大臣

船舶名	汽船 浮島丸	特設艦船種別	特設運送艦	所管	横須賀鎮守府
同	豐國丸				

内令第一六四號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年二月二十日

海軍大臣

佐世保鎮守府ノ部中臺灣海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

中支海軍航空隊

佐世保軍港

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁參照)

官房人第一〇二號

昭和十九年官房人第一二六二號申左ノ通改正ス

昭和二十年二月二十三日

海軍大臣

第一號表備考第一號(ロ)中「年齡二十八年以上」ノ下ニ「召集中ノ補充兵又ハ國民兵タル工作兵ヲ除ク」ヲ加フ

(參照) 一 昭和十九年十二月十九日秘海軍公報
二 召集中ノ補充兵又ハ國民兵タル工作兵ハ年齡二十八年以上ノ者モ技術科下士官任用ヲ志願シ得ルコトトス

官房教機密第九二號

海軍豫備學生教育綱領申左ノ通改正ス

昭和二十年二月二十四日

海軍大臣

第五條中「第十一條」ヲ「第十二條」ニ改ム

第九條 横須賀海軍通信學校科教程ニ於ケル教育ハ主トシテ陸上部隊通信士若ハ暗號士又ハ特務班要務員トシテ必要ナル

案ヲ得シムルヲ目的トシ豫備學生ヲ通信班及特信班ニ分チ

各班ニ課スベキ教科目左ノ如シ

本	科	日		記事
		通信班	特信班	
暗號	通信法	通信法一般、通信指揮法ノ大要、通信技術ノ初歩	通信法ノ大要、電信符號	
暗號	暗號	暗號法ノ大要、暗號書	暗號法、暗號要務及暗號書表ノ大要	
暗號	暗號	暗號法、暗號書	暗號法、暗號書	

科	補
衛生	陸戰
海軍衛生一級、救急法	陸戰教練
	普通學
	數學、物理學
	校長ハ必要ニ應ジ適宜トヲ得

(参照) 内令提要卷二、四八五頁

○ 暹 牒

教育機密第七九號

昭和二十年二月十七日

海軍省教育局長

鎮海、高雄、大阪警備府參謀長殿

半島及本島出身海軍二等兵教程標準ノ件通牒

首題ノ件別紙第一、第二及第三ノ通ニ定メラレ候

(別紙添)

艦本機密第一二號ノ二七七二

昭和二十年二月二十三日

海軍省軍務局長

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長
各海軍監督長 殿

艦船機密ノ戰術本位化趣旨徹底ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シテハ關係各部ノ努力ニ依リ漸次其ノ趣旨徹底シ

ツツアルモ工事粗漏ニ依ル故障今猶其ノ跡ヲ絶タズ延イテ一艦

ノ運命ヲ左右スルガ如キ重大事故惹起ノ原因トナレル事實モア

○ 雜 款

リ他方艦備ノ機裝ニ對スル過度ノ要望モアリテ未ダ一部ニ本趣旨ノ徹底セザル向アリト認メラルトコロ從來使用シ來リタル「機裝簡易化」ナル用語ハ動モスレバ工事粗略化ト誤解サレ易キ嫌アルニ鑑ミ自今「機裝ノ戰術本位化」ト呼稱スルコトニ改メ工作當務者並ニ艦側ノ從來ノ觀念ヲ是正シ眞ニ戰術本位ノ艦ヲ整備スルノ趣旨ヲ各部ノ末梢ニ迄徹底セシムル様取計相成度

○ 閉艦開隊

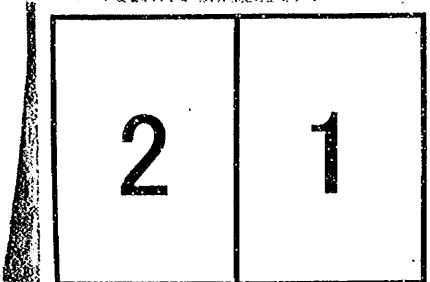
官衙、部隊名	所在地	開艦、開隊月日	記 事
博多在勤海軍武官府	福岡市海岸通二丁目十一番地	二月十三日	一 旅行願路 車(釜山線)浦下 步(大村)海軍開隊 隊(大村)海軍開隊 隊(大村)海軍開隊 隊(大村)海軍開隊
釜山海軍航空隊	朝鮮慶尙南道金海郡大湍面	二月十二日	二 隊(大村)海軍開隊 隊(大村)海軍開隊 隊(大村)海軍開隊 隊(大村)海軍開隊

○ 本日軍機秘海軍公報第八四號(乙配付)及同第八五號(甲配付)發行セリ

乙配付先
各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同支廠

○ 本日海軍公報發行セズ

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	半島及本島出身海軍二等兵 教程標準
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

軍 事 學					科 目	細 目
經 理 術		衣 糧 術				
會 計	庶 務	物 品 管 理	調 理		食 品 榮 養 糧 食	目
			特 殊 調 理	基 本 調 理		
二七	五	三〇	一〇	一三〇	一八	教 授 時 數
		一八八			科 目 別	

(教育機密第七九號別紙第三)

半島及本島出身海軍二等兵教程標準 (衣糧術) (經理術一般)

(昭和二十年二月二十六日海軍公報)

1875